

講義名	異文化間コミュニケーション論（2年生以上）			授業形態	
担当教員	中川 典子	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

異文化間コミュニケーションは、1960年代初頭のアメリカ合衆国に始まった分野である。地球規模で文化の多様性が重要視され、多種多様な文化と接触する機会が増える現代において必須の学問的、かつ、実践的分野である。本コースの目的は、異文化間コミュニケーションの基本概念を学び、様々な学習活動を実施することで、異文化の背景と価値観、考え方を自分々との共存を可能とする持続的な異文化間コミュニケーション能力を養うことである。このコースでは、コロナ禍における担当講師の専攻により、異文化間コミュニケーションの基礎理論に関する講義とセルフスタディ型の演習活動の二つのアプローチを用いたオンデマンド型の授業を実施する。このコースは本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という目標を、異文化間コミュニケーションの理論と実践を通して達成することを主眼としている。

到達目標

本コースでは以下の能力を養うことを目標とする。

- (1)自己分析力を養い、自文化に対する客観的視野を養える。
- (2)同一文化圏内に存在する多様性も含め、文化的多様性を尊重する態度を養える。
- (3)他者の意見を傾聴し、尊重することの重要性を学び、他者を理解するための態度を養える。
- (4)グローバルな視点で物事を考えられる力を養える。
- (5)上記を踏まえ、本学の「グローバル科目」のディプロマポリシーに掲げられた「グローバルな視点から、海外の社会や文化について学ぶ」という到達目標を達成する。

提出課題

授業資料視聴後に「学びと気づきの振り返りシート」を執筆し、期限までに提出する。登週の授業の準備としてその他の課題を提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

受講生が執筆した「学びと気づきの振り返りシート」の幾つかを教員が紹介し、コメントする。その他の課題がある場合は、提出された内容を抜粋し、スライドで提示しながら解説する。

評価の基準

(1) 課題（振り返りシート、その他）（60%）
(2) 定期レポート試験（40%）

* 上記の両方に取り組みなければ、単位は取得できません。

履修にあたっての注意・助言他

この授業は本来なら、講義とグループワークにより実施する授業ですが、コロナ禍における担当講師の事情により、オンデマンド型で実施します。授業日の前日に音声付パワーポイント資料を掲載したYouTubeのURLと、録音、その他の資料を「講義連絡」に掲示します。授業資料を、パソコン等の機器を使って視聴できるようにしておいてください。インターネットの接続も必要です。また、特定のスライドを再送したい入のために、同じ変換した資料を「講義連絡」に掲示します。「振り返りシート」等の課題は、必ず、資料を視聴してから取り組んでください。授業内容の詳細に言及していないものは評価の対象にはなりません。振り返りシートの執筆方法については、第1回目の授業で説明します。課題の「振り返りシート」の提出をもってその日の授業に出席と見なします。したがって、「振り返りシート」1回未提出で1回欠席となります。5回欠席で定期試験の受験資格を失い、単位を取得できなくなるので注意してください。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.異文化トレーニング、	八代京子、ほか	三修社	3,190	9784384012439
.異文化コミュニケーション-新・国際人への条件、	石井敬、ほか	有斐閣	3,200	9784641182554
.異文化コミュニケーション・キーワード、	古田暁、ほか	有斐閣双書	1,980	4641058741

その他

ハンドアウトおよびその他の資料は、適宜、「講義連絡」を通じて提示する。

授業計画

回	授業計画
1	コースガイダンス：履修に際しての重要事項の説明とミニ講義（異文化間コミュニケーション発展の経緯）
2	コミュニケーションとは（1）：コミュニケーションとは、コミュニケーションレベルに基づいた類型、対人コミュニケーション準備の要素
3	コミュニケーションとは（2）：コミュニケーション理論とモデルにおける4つの機能、4つのコミュニケーションのモデルの紹介
4	コミュニケーションとは（3）：文献調査に基づくコミュニケーションの定義
5	コミュニケーションとは（4）：コミュニケーションの5大基本前提、アクティブ・リスニング
6	文化とは（1）：閉じた質問 vs. 開かれた質問、文化とは、「レンボウウォー」から文化の特徴を探る
7	文化とは（2）：第3文化の子供たち（Third Culture Kids）、文化の定義、文化における3つの切り口
8	文化とは（3）：「あなたの所属文化」、社会階層と格差、在留外国人統計、日本における外国人問題1（技能実習生問題）
9	文化とは（4）：日本における外国人問題2（看護師・介護士問題、不登学児童の問題）
10	文化とは（5）：浜松国際交流センター（HICE）の活動、外国人問題に関して乗り越えなければならない課題、文化の基本前提
11	知識とカテゴリー化：知識とは、カクテルパーティ効果、焦点象（図）と背景象（地）、サブアウェアの仮説
12	カテゴリー化とステレオタイプ：カテゴリー化とは、ステレオタイプとは（ステレオタイプ定義、ステレオタイプの対象、ステレオタイプの形成方法）
13	マスメディアとステレオタイプ：「クレー」の実験、ビデオエクササイズ（ガンホー）
14	マスメディアとステレオタイプ2：ビデオエクササイズ「ガンホー」（フィードバック）、ステレオタイプの種類、ステレオタイプの特徴、II：マイクロ・アグレッション：マイクロ・アグレッションとは、マイクロ・アグレッションの事例、マイクロ・アグレッションの問題点
15	マイクロ・アグレッション：前面の課題（マイクロ・アグレッション）のフィードバック、II、偏見と差別の消滅に望まれる態度：エンパシーとシンパシー

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：前回の授業の復習、および、その週の課題に取り組む。（約2時間）
復習：その日の授業内容を復習し、理解を深めるとともに、講義内容や授業内活動に対する振り返りシートを執筆する（約2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

異文化間コミュニケーションの理論を現代のグローバル社会で起きている問題に応用し、考察することにより、知識を知恵に転換することができる論理的思考力を身に付け、多様な視点の獲得により新しい価値を生み出す創造力を醸成する。また、国内外の人たちと多様なコミュニケーションをとることができる姿勢を身につけることにより、卒業時に身につけておくべき専門・能力の育成につながる。これらの能力は理学部生に求められる変わりゆく経営環境の動きに強い関心を持ち、企業組織の中でリーダーシップをとって具体的な改善や解決の提案ができるための基礎知識の獲得、経済学部生に求められる人間、社会、自然に関する、これまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し課題を提案することができる力の育成、そして、人間社会学部生に求められる現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる学生を育てるという理念の達成に役立つ。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

提出された前回の授業に関する「振り返りシート」の幾つかを教員が紹介し、コメントする。授業内容、その他に関する質問は随時、振り返りシートを通じて受け付け、授業中に回答する。

実務経験の有無及び活用

備考

再掲しますが、このクラスでは音声付きパワーポイント資料を使って、オンデマンド型授業を実施しますので、パソコン等で視聴できるように準備をしておいてください。提出物すべてWordファイルで提出していただきます。教材はパワーポイント資料、PDF等をRyuka Portaの「講義連絡」に掲示します。課題の提出は非常に重要です。その他、授業に関する連絡は「講義連絡」を通じて行いますので必ず確認してください。